

(2024 年 3 月在職者名)

糖尿病・内分泌内科部長 堀内 俊博

糖尿病・内分泌内科医師 北村 雄哉

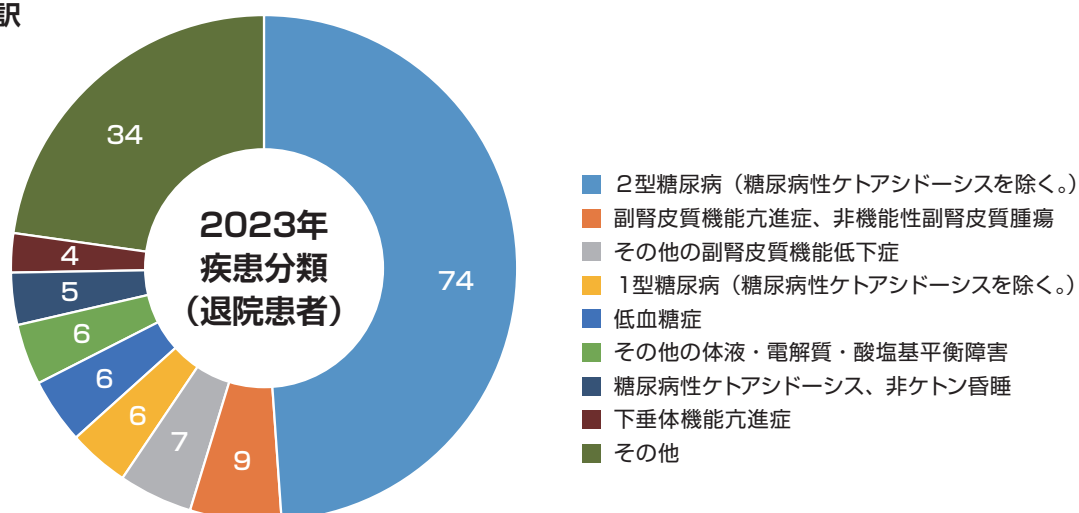
▶ 活動内容

効果的な糖尿病治療薬の登場やチーム医療の充実によって、糖尿病の治療効果は改善しており、以前は入院を要していた患者でも外来通院で治療することが可能となってきた。その結果、当科の入院患者数は減少傾向にあり、また、病診連携の推進によって、再来患者数も減少傾向にある。その一方で、他疾患加療目的の糖尿病入院患者に対する介入は治療アウトカムの向上に必須で、その重要性はますます高まっており、他科入院患者に対する介入件数（糖尿病サポートチーム介入件数）は増加している。

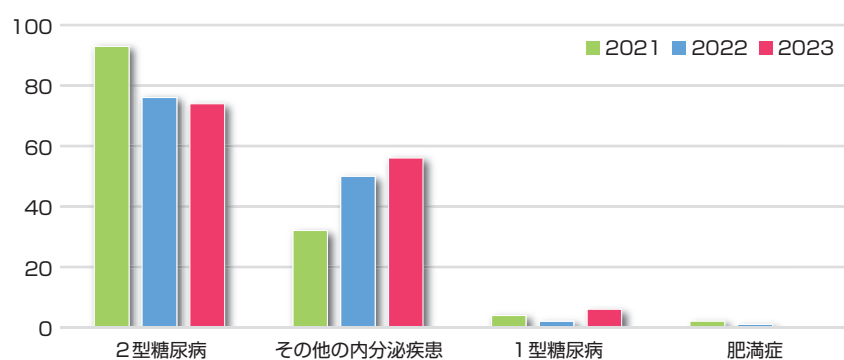
内分泌疾患にはバセドウ病のように典型的な症状が出現する疾患以外に、全身倦怠感、食欲不振、悪心、嘔吐などの不定愁訴が主訴となる症例も多く、さらに加齢とともに増加する糖尿病、高血圧、高脂血症、肥満、骨粗鬆症などの生活習慣病の背景に内分泌疾患が潜んでいる場合もあり、適切な診断、治療は患者の QOL を大きく改善する。内分泌疾患を取り扱う医療機関は福岡市内でも数少ないため、当院が地域医療へ貢献できる一領域と考えている。

- ・糖尿病（1 型糖尿病、2 型糖尿病、妊娠糖尿病、ステロイド糖尿病など）、内分泌疾患（下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患など）の患者に対して外来診療、入院診療を行っている。
- ・他疾患で入院となった患者で、糖尿病や内分泌疾患も併存しており他科コンサルトを受けた場合に併診してフォローしている。
- ・地域の先生方に、糖尿病などの知見に関する研究会を開催させて頂き情報発信などを行っている。
- ・糖尿病療養指導士の認定試験を受講する対象者に対して研修会を開催して講義を行っている。

▶ 入院患者 内訳



▶ 疾患別入院患者 年次推移



▶ 外来患者数

	2021	2022	2023
新 患	194	189	191
再 来	5,643	6,523	6,946
計	5,837	6,712	7,137

▶ 入院患者数

	2021	2022	2023
入 院	157	156	153
延べ患者数	2,183	2,291	1,910
平均在院日数	12.4	12.2	10.2

▶ 糖尿病サポートチーム介入件数

	2021	2022	2023
介入件数	730	766	552

▶ 入院患者年齢構成

年齢	2021	2022	2023
10歳未満	0	0	0
10代	1	1	1
20代	3	3	8
30代	12	5	7
40代	13	16	16
50代	37	38	27
60代	32	17	27
70代	38	56	45
80代	17	18	20
90以上	4	2	2
計	157	156	153

▶ 地域別紹介患者数

		2021	2022	2023	平均
福岡市	中央区	127	157	132	139
	東 区	61	34	36	44
	博多区	38	35	35	36
	西 区	33	13	26	24
	早良区	28	26	22	25
	城南区	21	11	21	18
	南 区	10	17	18	15
福岡市計		318	293	290	300
糟屋郡	糟屋郡	25	13	18	19
	県 外	13	20	17	17
大野城市	大野城市	5	2	10	6
	糸島市	20	5	5	10
宗像市	宗像市	1	1	4	2
	太宰府市	5	0	4	3
春日市	春日市	4	7	3	5
	久留米市	1	11	2	5
筑紫野市	筑紫野市	3	1	2	2
	那珂川市	2	0	2	1
その他	その他	9	7	5	7
総合計		406	360	362	376

▶ 2023 年 学会発表

演者名	共同研究者	演題名	学会名	発表年月日	開催地
岡本佳那子		sglt2 阻害薬により気腫性腎盂腎炎を発症して腎臓摘除を行われた症例	第 531 回福岡市糖尿病アーベント	2023 02/21	WEB 開催
北村雄哉		薬剤性過敏性症候群に対するステロイド治療中に発症したDKAの病態についての検討	Endocrinology & Metabolism Conference in Fukuoka 2023	2023 12/16	福岡県

▶ 2023 年 論文掲載

著者名	共著者名	演 題	雑 誌 名	年	巻号	ページ
堀内俊博		糖質制限食を開始したがインスリン依存状態へ進行した自己免疫性1型糖尿病の1例	日本病態栄養学会誌	2023	26(1)	121-125

(糖尿病・内分泌内科部長 堀内 俊博)